

地域連携型教育支援 呉市・子育て支援事業の取り組みに関する検討報告

広島文化学園大学看護学部

山内京子, 佐々木 秀美

呉市保健福祉部子育て施設課

西村 淑子, 森岡 伸治

■ はじめに

広島県西南部に位置する呉市は、瀬戸内海に面していることからその気候は温暖で、旧市街地は平坦地が少ない。海まで張り出した山塊によって市街地が分断され、沿岸部に重化学工業が立地、その背後の市街地を取り巻く急傾斜地に民家が密集するという特殊な土地利用構造をとっている。こうした土地環境の中、旧市街地（警固屋町、宮原町、中央町）では大幅な人口減少がみられる一方、昭和町、郷原町の丘陵部では人口の増加がみられる等、近年の人口動態にも特色がみられる。呉市の家族類型別構成は「夫婦と子供」世帯が30.8%、「夫婦のみ」世帯が24.2%、「片親と子供」世帯が9.4%と核家族と総称される家族類型が全体の64.4%を占めており、夫婦と子供と親がともに暮らす「三世代家族」は3.9%と非常に少ない。また、6歳未満親族を含む世帯は「夫婦と子供」世帯が全体の8割を占め、これに「片親と子供」世帯が11.1%と呉市における子育て環境では、その9割が親と子供のための世帯で構成されるという特徴を持っている¹⁾。

こうした呉市独特の子育て環境の中、呉市における「子育て支援力向上」を目指して、地域における子育てを支える保育士・幼稚園教諭のリカレント教育の必要が急務であることから、呉大学看護学部（現在の広島文化学園大学看護学部）が呉市子育て施設課の強い要請に応え、協同で開始した子育て支援事業の5年間の取り組みについて検討を加えたので報告する。

■ 子育て支援事業の概要

看護学部は呉市子育て施設課から、次のような目的で子育て支援事業としての夏季研修会開催を依頼された。開始年度の目的(平成20年度)は、『呉市は、平成17年4月に「呉市次世代育成支援行動計画」を策定し、地域社会全体での子育て支援に取り組んでいる。しかしながら、子どもの育ちをめぐる環境が大きく変化する中、幼稚園・保育所（園）に期待される役割が深化・拡大してきている現状にある。幼稚園・保育所（園）職員の資質向上のため、従来の研修とは異なり、専門資料や教材が整った呉大学に職員を派遣することにより、より専門性の高い知識を持った職員を養成する』であった。その後もこの目的に基づき、5年間の研修会が実施されている。本事業の最初の話し合いは呉市宮原課長、山脇主幹、西村課長補佐、と広島文化学園大学（旧 呉大学）看護学部長佐々木秀美、山内京子の5名で行われ、どのような研修内容が必要なのか、その目的やねらい等を確認しあうことから始まった。その後、何度も話し合いを重ねながら、具体的なプログラム案の作成、日程の調整、受講生への連絡等々に着手した。

上記目的で開始した子育て支援事業としての研修会の実施期間は比較的大学教員が講義のための時間を確保しやすい夏季休業期間（8/1から8/12）で開始した（資料1参照）。

2週間の研修期間の第1週目は主に子育てに関する発達・心理関連の講義・演習を学部生と同じ講義時間（1コマ90分）で1日4コマ開講、第1週目の合計は20コマ、第2週目は家族・行政に関

する講義に加えグループワーク・演習を中心に20コマ、合計2週間で40コマ(90×40=3600分、60時間)のプログラムで開講した。

研修会の受講対象者は、呉市内保育所保育士(公立保育所・私立保育園)、呉市内幼稚園教員とした。

第1回目の研修会講師は看護学部の心理・小児・精神・基礎・成人・母性看護学領域の教員11名(佐々木、山内、東中須、金子、山下、長沼、入江、岩本、大原、原、若林)と社会情報学部教員1名(磯田)の計12名で開始した。なお、呉市の保育行政に関する3コマは呉市の子育て支援課・施設課の協力を得て開講した。

研修会は夏季休業中の盛夏に実施されたが、欠席者は例年ほとんどなく、受講生たちの2週間(60時間)の研修を終えた達成感の強さが研修会終了後のアンケートからも窺える。

日頃、乳児・年少・年中・年長の子どもの健康・安全に留意しながら子どもの成長を手助けするため、日々いそがしく身体を「動かして」いる受講生にとっては1コマ90分の講義(座学)に研修会開始後数日間は身体が慣れず苦労の様子が窺えたが、研修会も後半になると自分たちで課題を設定しての演習やグループワーク、その成果発表のプレゼンテーションに生き活きとした表情が窺える。研修会の演習・グループワークを通して、日頃はなかなか接点を持つことのない保育士・幼稚園教諭間での情報共有、課題解決に向けて、積極的な意見交換に和気藹々な雰囲気^{わ き あい あい}がどのグループでも見られた。

研修会の総まとめとしてのレポート課題は2週間の学びの集大成としてまとめられ、研修会終了後に大学に提出され、学内で回覧、講義・演習を担当した教員は翌年への振り返り、次年度への課題の明確化等、評価をする貴重な資料となった。また、研修会最終日には学長から研修会修了証書の交付式があり、受講生は全員緊張の面持ちで厳粛な雰囲気のもと修了証書を手渡された。

研修会終了後の受講生は「女子大生とサヨナラの会」と称した、研修受講生と講義担当教員の交流の場を設定、食事をしながらの学内とはまた違った雰囲気の中で自由な意見交換にお互いの新たな一面を見ることができた。こうしたつながりは研修会終了後も有志による勉強会として継続している。

看護学部も本事業を依頼された当初は、これま

でにないまったく初めての試みであり、手さぐり状態で始めたが、看護学部と呉市子育て施設課が協同で始めた研修会も今年で5年目となり、これまでの取り組みの成果と今後の課題を明らかにするために、研修会受講生全員に対して改めてアンケートを実施し、5年間の本事業の評価をすることにした。

■ 5年間の研修会の評価

平成20年度～5年間の研修会の評価と課題を検討するために、これまでの受講生にアンケート調査を実施、研修会の今後のあり方と方向性を明らかにすることができた。

調査方法はアンケート調査で回収は郵送法とした。配布数は85部、回収77部、回収率は90.6%であった。設置主体別の回収率は、公立保育所(以下、公立と略す)が38/38(100%)、私立保育園(以下、私立と略す)が19/23(82.6%)、幼稚園は20/24(83.3%)であった。

質問紙の構成は、受講年度、受講後の変化について3項目、今後の希望(講義内容、方向性)、要望・意見の7項目から成る。

1) 受講年度

回答者全体の受講年度に偏りはなく、設置主体別でみると公立・私立は例年ほぼ同じ様な状況の受講状況であるが、幼稚園は受講年度により偏りがみられた。

2) 受講メンバーとの交流

受講後のメンバー間の交流状況については、全体でみると「ある」「たまにある」を合わせて5割を超えていたが、保育所と幼稚園ではその傾向に大きな違いがみられ、幼稚園においては「まったくない」が半数をしめている。

3) 受講後の保育における視点の変化については、公立35/38(92.1%)、私立14/19(73.7%)、幼稚園11/20(55%)の回答が得られた。研修会受講後に保育をするにあたっての視点の変化を感じている者が9割弱をしめていた。特に公立においては約半数が保育の視点に変化が「ある」と答えており、私立・幼稚園に比して高い割合をしめている。一方、幼稚園においては「ほとんどない」「まったくない」が2割をしめ、同じ受講内容の

研修会を受けても3施設に違いが認められ、受講者側のレディネス状況が受講後の成果の違いに影響を与えていることが窺える。主な変化の視点としては、「発達に関する学習内容をこれからの保育に活かしたい」「子どもの見方とらえ方に変化を感じた」「コラージュや絵画療法を取り入れた」「アートへの意識の変化」がある。

4) 受講後、新たに保育所(園)・幼稚園で取り入れた内容については、3施設で6割強が研修内容を積極的に日々の保育に取り入れていた。しかし、3施設間では、取り入れ方の姿勢に差がみられ、公立と私立で「ある」の回答者は2倍の差、幼稚園では「ほとんどない」が7割と受講者側のニーズに違いがみられることが明らかになった。具体的な内容としては、公立は26/38(68.4%)の回答があり、「絵画療法」「描く」「語ろう」「つぶやきや思いの傾聴」「絵の具遊び」「救急法研修」「コラージュ」「場面記録」「保護者対応」「エンカウンター」「楽器演奏」「和太鼓」「無理に断乳しない」「保育室の環境整備」等であった。私立は12/19(63.2%)の回答があり、「コラージュ」「事故発生対応マニュアル作成」「造形」「AEDの使い方」「救急対応」「うたの歌い方」「母乳育児」「声かけの仕方」「お互いを認め合う」等であった。幼稚園は5/20(25%)の回答があり、「事故対応」「AED」「保護者への救急救命研修」「楽器指導」「声の出し方」「学習障害の子どもへの援助法」等であった。

5) 今後、さらに受講したい講義内容としては、公立は32/38(84.2%)の回答があり、「発達心理学」「人間関係論」「家族看護論」「乳児保育(アレルギー・離乳食・病気等)」「保護者対応」「ベビーマッサージ」「リトミック」「身体づくり」「障がい児保育」「カウンセリング」「コーチング」等であった。私立は9/19(47.4%)の回答があり、「発達障害」「気になる子、障がいのある子への支援」「保護者対応」「音楽・楽器関連」「伝染病・感染症対応、アレルギー」等であった。幼稚園は11/20(55%)の回答があり、「絵画表現」「子どもの病気」「楽器・合奏の指導方法」「リトミック」「気になる子への支援、見方」「直接保育に係らない広島文化学園大学看護学部でしか受講できない講義」等であった。

6) 今後の期待する方向性としては、公立は27/38(71.1%)の回答があり、「心を育てる心育」「発達を見極めて生かせる保育」「専門性の高い内容」「今と同様の方向性で内容に変化を」「平成23年度の内容が良かった」「自分の意見を言える場」「公立と私立保育所の交流の場」「意見交換・情報交換の場」「現場で実践できる内容」「あらかじめ講義内容を紹介してもらっておき、選べる研修」「感情労働職として人間関係論ははずせない」「看護師さんとの情報交換」等であった。私立は12/19(63.2%)の回答があり、「研修期間が長いので私立だと参加が難しい」「研修期間の短縮」「他園との交流の継続」「保護者対応研修」「研修終了後も引き続きの情報交換ができる」「実際に保育の現場で取り入れていけるもの」「平成23年度と同じような内容」等であった。幼稚園は12/20(60%)の回答があり、「講義日程の調整(2週間は難しい)」「各園で順番で受講できるような日程調整を希望」「定期的な研修」「すぐに実践できるもの」「具体的な保育実践の紹介」「保護者対応」「受講生と講義担当の先生との受講後の連携」「呉市で唯一の幼保合同研修なので、是非今後も継続して欲しい」等であった。

7) 要望・意見としては、公立は26/38(68.4%)の回答があり、「年齢順での受講と聞いているが受講経験者として、保育に返す義務を持って受講する必要がある」「公立・私立・幼稚園、横での情報交換が必要」「『ハチャメチャの会』が時間内にあれば参加者が増えるかも」「フォローアップセミナー」「資格取得につながるような研修であれば費用負担でも受講したい」「研修期間を1週間くらいに短縮してもらえると保育への支障が軽減できる」「より目的のはっきりしたプログラムもあっていいのでは」「受講時の気持ちが低下してきている」「とてもいい企画、研修なので2順めも企画して欲しい」「1期生だが、研修ステップ2があると嬉しい」「子どものため、子どもの立場にたつのは得意だが、保護者の立場になるとまだ寄りそえていない現状がある」「担当を持たずにフリーの年度に受講できれば集中できた。受講前後でクラスの雰囲気がかなり変化して困難を生じた」「講義の内容を選べれば良い」「受講者以外にも受講できるコマを解放して欲しい(心理・精神関係の講義等)」等であった。私立は10/19(52.6%)の回答があり、「職場全体で共通理解を

深めることができありがたかった」「とても貴重な研修なので今後も是非続けて欲しい」「主任やベテランの方とも議論できたり、様々な意見が聞けてとても勉強になった」「10日間の研修期間は送り出す保育所側にもとても負担になるが、参加した側としてはとても意義深い研修」「夏休み中でも子どもたちは登所しており、他の先生方の負担が大きくなる」「他園の先生方のお話を聞くことができよかった」「日々の保育に新しい風や見方ができるようになった」等であった。幼稚園は10/20（50%）の回答があり、「2週間のプログラムは長いので参加するのが難しい」「期間を短くするか2期に分けてもらえると参加しやすい」「学んだことは多くあったが、それを生かしていない気がする」「1週目をふまえての2週目の講義という感じがしたので、ついていけないことがあった」「2週目に参加してもわかりやすい講義内容だと嬉しく思う」「大学生に戻った気分で参加できた」「幼稚園教諭が10日間の連続参加は厳しいので、定期的に受けられるような研修会があればと思う」「研修会が終わると幼保の交流がなくなってしまうので、1年に1回でも子どもの現状や問題に思うことなどを話し合う交流の機会が持てたらと思う」等であった。

■ まとめ

平成15年に子育て支援事業が「児童福祉法」に位置づけられ、すべての親子を対象に多様な子育て

支援事業が全国で実施されるようになった。平成23年度現在、厚生労働省が管轄する主な子育て支援事業には、地域子育て支援拠点事業、乳児家庭全戸訪問事業、養育支援訪問事業、ファミリー・サポート・センター事業、放課後児童健全育成事業、乳幼児と中・高校生のふれあい事業等がある。一方、子どもを取り巻く環境の変化は著しく、ますます少子化は進行、合計特殊出生率が平成15年に1.29にまで低下したことをうけて、国は10年間の時限立法として同年に「次世代育成支援対策推進法」を制定、地方自治体に「次世代育成支援地域行動計画」の策定を義務づけている。

呉市はこの法律をうけて「すくすく・のびのび・子育てが楽しいまち くれ」を基本理念として、行政、地域住民、地域企業が一体となって少子化対策を推進していくために「呉市次世代育成支援市町村行動計画」を平成17年3月に策定、この計画は来年、完成年度を迎える^{2) 3)}。

こうした呉市の子育てを取り巻く環境の中、呉の地で子育てをする親と子を支える保育士・幼稚園教諭の子育て支援力を向上させるために呉市と大学が取り組んだ地域連携型教育支援としての本事業は、設置主体によりその成果の還元の方向性に違いが見られたが、公立・私立保育所（園）、幼稚園の貴重な横でのつながりは少しずつ呉市に目に見える形となって定着してきており、明らかになった今後の方向性について具体的な方策を講じていくことが次の課題である。

引用文献

- 1) 西村雄郎、佐々木さつみ他：子育て施設を核とする地域社会の子育てシステム構築に関する社会学的研究、平成17年度 呉地域オープンカレッジネットワーク会議地域活性化研究助成成果報告書、2006.
- 2) 呉市次世代支援育成行動計画（前期計画）、福祉保健部子育て支援課、2005.
- 3) 呉市次世代育成支援行動計画（後期計画）、福祉保健部子育て支援課、2010.

資料 1

平成20年度 呉市子育て支援プログラム

研修場所：阿賀キャンパス

呉市阿賀南2-10-3

連絡先：0823-746000

第1週

	8月1日(金)	8月2日(土)	8月4日(月)	8月5日(火)	8月6日(水)
9:20~ 10:50 1	開講式 オリエンテーション 301講義室	発達心理学 【若 林】 301講義室	演 習 エンカウンター 東中須・岩本・大原 金子・佐々木・長沼 原・山内・若林	小児看護学概論 【長 沼】 301講義室 2階実習室	小児救命救急 救命演習 【岩 本】 2階実習室
11:00~ 12:30 2	発達心理学 【若 林】 301講義室	発達心理学 【若 林】 301講義室		小児看護学概論 【長 沼】 301講義室 2階実習室	
13:20~ 14:50 3	人間関係論 【東中須】 301講義室	人間関係論 【東中須】 301講義室	大講義室 2階実習室	小児看護技術 【長 沼】 301講義室 2階実習室	小児看護技術 【長沼・大原・原】 2階実習室
15:00~ 16:30 4	人間関係論 【東中須】 301講義室	人間関係論 【東中須】 301講義室		母乳育児支援 【入 江】 301講義室 2階実習室	

第2週

	8月7日(木)	8月8日(金)	8月9日(土)	8月11日(月)	8月12日(火)
9:20~ 10:50 1	家族社会学 【磯 田】 301講義室	子育て支援と行政 (少子化対策) 【呉 市】 301講義室	演 習 コラージュ 佐々木・岩本・大原 金子・長沼・原 東中須・山内・若林	演 習 課題学習 山内・岩本・大原 金子・佐々木・長沼 原・東中須・若林	全体発表会 佐々木・岩本・大原 入江・金子・長沼 原・東中須・若林・山内
11:00~ 12:30 2	家族社会学 【磯 田】 301講義室	子育て支援と行政 (母子福祉行政) 【呉 市】 301講義室			2階実習室
13:20~ 14:50 3	家族看護論 【佐々木】 301講義室	子育て支援と行政 (子どもの人権) 【呉 市】 301講義室	2階実習室	図書館 2階実習室	修了証書授与 第2会議室 2階実習室
15:00~ 16:30 4	家族看護論 【佐々木】 301講義室	食 育 【山 下】 301講義室			まとめ・交流会 岡学長 佐々木・岩本・大原 入江・金子・山内・長沼 原・東中須 若林・山下 第2会議室

資料 2

設置主体別広島文化学園大学派遣研修参加者一覧

平成 20 年度	公立保育所（園）	10 名
平成 21 年度	公立保育所（園）	9 名
平成 22 年度	公立保育所（園）	9 名
平成 23 年度	公立保育所（園）	9 名
平成 24 年度	公立保育所（園）	10 名
平成 20 年度	私立保育所（園）	5 名
平成 21 年度	私立保育所（園）	6 名
平成 22 年度	私立保育所（園）	6 名
平成 23 年度	私立保育所（園）	6 名
平成 24 年度	私立保育所（園）	4 名
平成 20 年度	幼稚園	9 名
平成 21 年度	幼稚園	2 名
平成 22 年度	幼稚園	5 名
平成 23 年度	幼稚園	9 名
平成 24 年度	幼稚園	5 名